

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105464		
法人名	アンドライフサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北花田 1階		
所在地	大阪府堺市北区新堀町2丁119		
自己評価作成日	平成23年9月27日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府大阪市中央区常盤町二丁目1番地8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成23年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の保育園や自治会、子ども会との交流等連携も継続し、地域とのふれあいを大切にしながら、安心と信頼に向けた関係作りに日々努めている。家庭的な雰囲気の中で、その人らしく「ゆっくり、穏やかに、笑顔ある暮らし」が送れる様、管理者、職員の思いを理念に追加し、より安心して生活出来る要支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体は昭和21年設立で、今から約8年前に円高不況で人員削減を迫られている時、福祉に関心の高かった経営者が従業員の生活を守るため、地域に貢献できる福祉の世界へ乗り出した。その事業所の一つが、グループホーム北花田である。事業所は3ユニットあり利用者の平均年齢は85歳と、かなりの高齢にもかかわらず殆どが自立歩行できている。介護の基本は利用者一人ひとりと寄り添いながら日々楽しく過ごすことと職員は言う。近隣の保育園、管理者の子女の通っていた保育園とも積極的に交流を図っている。入浴も曜日や時間にとらわれず何時でも可能である、一人ひとりのニーズに寄り添った介護の姿が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民の一人としての理念を掲げ、新たに立てた全職員の思いでもある「ゆっくり、穏やかに、笑顔ある暮らし」を大切に、職員ミーティング、申し送りを通じ、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「安心家族・ゆっくり、穏やかに、笑顔ある暮らし-地域と融和をはかり、利用者に喜んでいただけるサービスの提供」と地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくりあげ、ミーティングで確認をしながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に参加し、回覧板が回ってくる事で催しや行事の参加に繋がっている。また、近隣の保育園、自治会の子供会等との交流、ホームでの催しの行事へ参加して頂く等、交流が図れるよう努めている。	地域住民の一員として自治会に加入して、色々な行事に参加したり、地域の保育園の子ども達とも交流するなど、積極的に地域住民との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、近隣の方に利用者の様子、行事の取り組み、認知症とは、また支援の方法、勉強に繋がる内容を取り入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームとしての取り組み、状況や問題等を報告、それに伴い、話し合いを行い、頂いた意見よりサービス向上に努めている。	運営推進会議では、色々な問題点や課題、行事のことや夜間における災害のことが双方向で話し合われ、それらの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状況に沿った相談をふまえ、意見交換及びアドバイスを頂き、協力関係が築き出来るよう取り組んでいる。	権利擁護に関すること、家族との関わりについてなど、ことある毎に区役所の窓口や地域包括支援センターに出向き、積極的に伝えたり相談したりしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の鍵は施錠しているが、内玄関は開錠、利用者の訴えがあれば職員の見守りの上での外出、また他フロアへも行き来するといった取り組みも行っている。	管理者および職員は、研修をとおして身体拘束によって利用者にも与える身体的、精神的苦痛を十分に理解しながら日頃のケアに取り組んでいる。事業所内の各フロアは自由に行き来出来るようになっていて、閉塞感を感じない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部勉強会への参加、社内研修、職員ミーティング等で、考えられる内容の検討事例を元に、話を盛り込むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について司法書士に相談し、学ぶ機会を持ち、必要とされる関係者に対して話し合いを持って活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安、疑問に思っている事が自然と話せる環境作りに努め、不安を少しでも取り除け、理解、納得が得られるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族へアンケートを実施し、家族からの些細な意見にも耳を傾け、を運営会議、運営推進会議等で報告。その意見を運営に反映できるよう努めている。	運営推進会議や家族へのアンケートを通じて利用者や家族等の意見要望を表せる場が設けられている。また、利用者本人とは日常の関わりの中で、家族等とは来訪時にも聞き出し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティングや運営会議を開催し、意見や提案等発表しやすい環境作りに努め、運営に反映できるよう心がけている。	月に一度行われている職員ミーティングや運営会議で、行事の在り方や防災に関する事など運営に関する意見や提案が話し合われ、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の思いや努力を仕事の拠点にし、向上心を恒に持って働けるように職場の環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、必要に応じてその職員に合った内容、その状況の研修を受ける機会を確保し、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、地域のグループホーム会議に出席し、勉強会、情報交換、意見交換を実施。サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人一人の状況を把握することで、声かけや傾聴に心を、気を傾けながら、共に不安なく、安心して過ごせる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、契約、入所後とその時に応じた内容で、家族等安心して相談できる様に信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応については、本人の意向を大切に、現在の生活の様子を見守り、他機関での他機関でのサービスも視野に入れた対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や手芸等ではもちろん、本氏の持っている力が最大限発揮できる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ひまわり通信やお便りでは、ホームでの生活の様子をお知らせすると共に、家族との外出泊、行事への参加等一緒過ごせる時間作りをし、家族間の信頼関係の維持が出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟、馴染みの友人、知人との関係を大切に、今まで通っていたスーパーへの買物や、神社、公園への散歩等、関係が途切れないよう支援している。	利用者本人が地域との関わりが途切れないように、本人の馴染みの場所である商店や寺院、公園など何時でも行けるように、家族との協力も得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の行動を把握し、必要に応じて声掛け、見守りながら、利用者がお互いにかかわりが出来る環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても、状況に合った対応や相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態、会話の中で、希望や意向を把握する事で、本人の思いに出来るだけ近づけるよう考慮している。	利用者本人がどこで、どのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかなど、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。そして、家族と協力しながら、可能な限り実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの生活環境や日課の確認、把握をし、家族や担当ケアマネージャー、職員、本人からの情報収集、連携を図り、本人らしい生活が維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の生活歴やできること・できないことシートを家族へ依頼し、それを元に本人の状態を把握した上で、無理のなく能力が発揮でき、楽しく過ごせる様努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の様子から変化に気付き、モニタリングを行い、担当者会議を元に意見やアイデアから新たな介護計画を作成している。	利用者がその人らしく暮らすことが出来るために、本人、家族等や必要な関係者と話し合い、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録として残し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族が安心して暮らし続けて頂けるよう、必要な時に必要なサービスが提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌体操のボランティアで楽しんでいる。また、消防訓練にて指導を頂き、利用者も参加される事で安心して頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を尊重し、かかりつけ医へスムーズに受診できるよう医師との連携が図れるように支援している。	本人や家族等の希望するかかりつけ医の受診になっている。事業所の協力医は月2回の往診になっているが、以前からのかかりつけ医の受診は家族の協力により受診し、スムーズな医療連携が図られるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医への相談はもちろん、協力医療機関の看護師とも細かい情報を伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報シートに記載して情報提供に努め、入院後も環境の変化の軽減が図れるよう、面会時等話を聞き、病院関係者との情報交換や相談に努め、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族が望んでいる事、思いを理解し、状態に応じて随時家族や医師と話し合い、本人にとって一番安心して過ごせるよう対応に取り組んでいる。	重度化した場合の対応は利用者本人や家族等と話し合いながら、状態の変化に応じて都度家族や医師などと連絡を取り合い支援している。事業所の指針は出来ているが、成文化し確認書を取り交わすまでには至っていない。	終末期ケアの在り方について意志や方針を共有するため、指針を成文化し確認書の取り交わしをされることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを設置し、いつでも閲覧できる。毎日の申し送りや研修の中で、利用者の状態を把握し、対応出来る様煮定期的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の合同避難訓練、日頃より自主訓練を行い、反省会を開き、次回に向けて新しく取り入れたりと試行錯誤しながら練習している。行事や運営推進会議を通じて地域との交流を図っている。	年2回の避難訓練を実施し、随時夜間を想定した訓練を行い職員の意識の向上に努めている。運営推進会議などで地震等も含め災害時の住民参加の協力を依頼している。	地域へ出向いて「高齢者介護について」の出前講座を開くなどして、地域との繋がりを深めていながら協力を求める等、双方向での協力体制が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	短くてわかりやすい言葉使いに注意しながら、人生の先輩として敬う気持ちでも言葉掛けに対応している。	利用者の気持ちを大切に考え言葉使いに気を付け、有難うの気持ちで接し、プライバシーを損なわない様心がけている。定期的にプライバシー確保の研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情を把握しながら必要に応じて話を傾聴し、職員と一緒に過ごせる時間を、1人にさせない様に、活気ある生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態を把握し、職員と買物や散歩、お茶を飲みに行ったりと気分転換を図り、本人の気持ちを大切に、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服や季節に応じた服装が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、盛付、片付け等利用者の能力に応じて職員と一緒に食事を楽しんでいただけるように支援している。	調理、盛り付け、後かたづけなど利用者の出来るお手伝いをしている。テーブルの配置を変えたりBGMにクラシックをかけるなど楽しく食事をする雰囲気作りをしている。一週間に一度好みのメニューの日を決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立、栄養のバランスを基本として、個々の身体状態をチェックし、出来るだけ水分を摂取出来るよう味噌汁、お茶、果物、ゼリー等形状を変えながら摂取を促している。また、服薬時にもたくさん水を飲んで頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の出来る力に応じて見守りと介助と声掛けをする。義歯も自分の歯もない方には柔らかい歯ブラシで口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄リズムをチェックし、声かけや時間に沿ってのトイレ誘導により、自立に向けた排泄が出来るよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレで排泄出来る様に支援をしている。職員は紙パンツから布パンツへと目標を持ち自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便の状態を把握し、水分補給や繊維質の多い食材を取り入れ、毎朝ラジオ体操から始まり、プランに沿った屈伸運動や入浴時のお腹マッサージ等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の身体状態をチェックし、希望に沿った時間に入浴できるよう支援している。その日の出来事を話しながら、入浴を楽しまれるよう支援している。	入浴は毎日可能であり何時でも好きな時間に入浴が出来る。入浴時は職員が寄り添いその日の話をしたり、大きな湯舟でゆっくりと寛ぎ楽しく入浴出来る支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の体調をチェックし、フロアで音楽やゲーム等をして過ごして頂く事で、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用している薬の表を作成し、目的や用法を理解し、名前など再度確認をしながら服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の持っている力が発揮できるように努め、楽しい生活が維持できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って買物や公園へ出かけられるよう努めている。自営の会社へ行く事で、笑顔の見られる方もいる。	日常は近くのスーパーや公園、神社などに散歩に出かけている。自営の会社に行くことを楽しんでいる利用者もいる。花見や、家族を交え一緒に観光バスで花鳥園に出かけるなど、楽しい外出の機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出し、好きな物を選んで買物をする楽しさを大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、本人自身が電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや生活感を大切にし、快適な生活空間が維持できるよう、中庭、玄関に季節に沿った花を植え、季節感を取り入れるよう心掛けている。	明るい居間にはテーブルやソファが置いてあり所々に利用者の作品が飾られている。カウンターキッチンからは料理のにおいがし、生活感がある。建物の周りには野菜や柿の木、キーウイが植えてあり季節を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置、観葉植物を利用して、皆がひとつの事をして楽しんだり、個々が自分の趣味に取り組んだり出来るよう工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって馴染みのある家具、大切にしている物を置く事により、安心できる環境を維持できるよう支援している。	居室にはミニキッチン、トイレの設えがあり、入口扉には鍵がついている。利用者は好みの家具や冷蔵庫、家族の写真、手作り作品が置かれ、その人らしい居心地良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者側からの視点を大切にすると共に、生活機能力やQOLの向上に繋がるように支援している。		